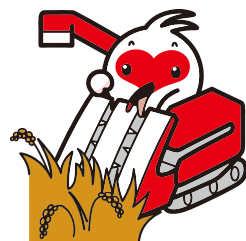


④ 稲作農家が工夫していることはなんですか？



① 平野の稲作

信濃川や阿賀野川など大きな川の下流にひろがる平野では、こえた土とゆたかな水、稲作に適した気候の中で、米づくりがさかんに行われています。

平野の地域では、大型の機械を使った作業がしやすくなるように、小さな田んぼをまとめて形の整った大きな田んぼにする、ほ場整備（P21参照）もすみ、効率的な稲作が行われています。

農業の機械化が進み、短い作業時間ですむようになったため、ふだんは会社や工場などにつとめ、休みの日に農業をする兼業農家は、ねだんの高い農業機械を共同で利用することで負担を軽くしたり、専業農家は小規模の農家から作業をうけおって規模を拡大することで、収入を

高める工夫をしたりしています。

ほかにも稲作だけではなく、米づくりのできない冬には野菜や花のハウス栽培や、もちやみそなどの加工食品の製造・販売をおこなって、一年をととして収入を得られるように工夫をしています。

● 農家のおにいさんの話 ●

わたしは、10ヘクタールの水田で米づくりをし、父はハウスで野菜栽培をしており、おいしい米と野菜づくりをめざしてがんばっています。

これからはもっと規模を大きくして生産性を高め、消費者によるこんでもらえるものをつくっていきたいと思います。

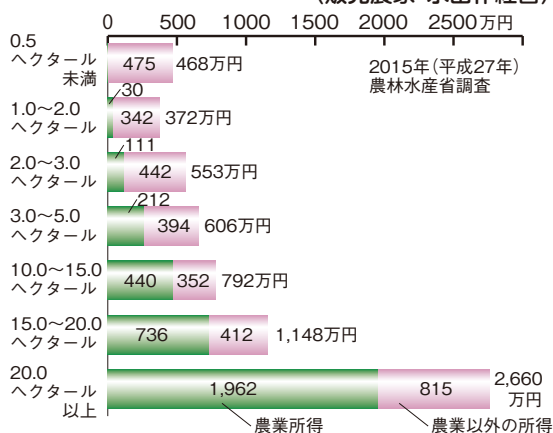


▲コンバインによるお米の収穫作業の様子



▲稲作で使っていない期間を利用したサラダ菜の施設栽培

● 新潟県の水田作面積別農家の所得 (販売農家・水田作経営)



メモ: 農業所得ってなに？

農産物を販売して得た収入から、農産物を栽培するためにかった費用をひいて、手元に残るお金のことです。

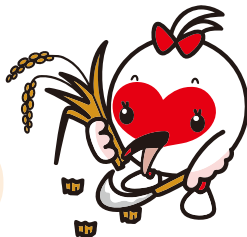
②中山間地域の稲作

新潟県は全面積の約7割が山あい^{へいたん}で平坦な土地の少ない地域^{ち い き}(中山間地域)にあたります。このような地域では、山の斜面などにつくられた小さくて形が不ぞろいな田んぼが多く、ほ場整備^{じょうせい}(P21参照)が難しいことから、小型の機械や、一部では人の力を使って米を作っているところもあります。

中山間地域^{ち い き}では、若い人が都市部で働くために地域をはなれたり、高齢化が進んでいることで、農業をする人が減ったりしています。そのため、生産組織などをつくって、地域の人たちで機械や作業所を共同で使ったり、農業が続けられなくなった人の田んぼを引き受けて管理したりするなど、地域全体で協力して農業を続けられるように工夫しています。

また、ゆたかな自然をいかした特産品をつくったり、都市の人たちを招いて交流したりするなどして、地域を盛り上げる工夫をしています。(P31参照)

中山間地域^{ち い き}
の稲作は、
作業が大変です



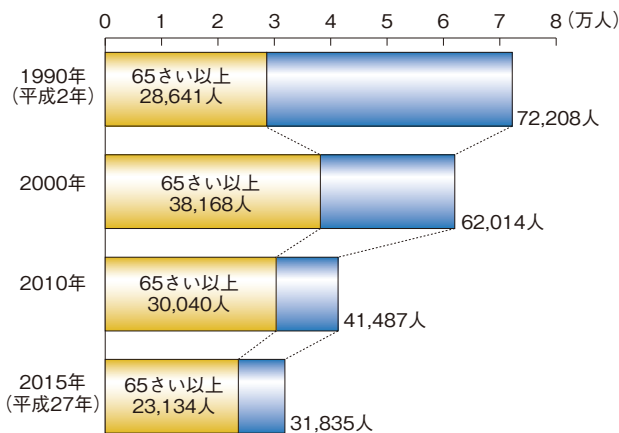
メモ:環境に優しい農業ってなに?

田んぼや畑の生き物や自然環境を守るために、農薬や化学肥料をできるだけ減らして農作物を栽培する農業のことです。

農作物を安定して収穫するには、病気や害虫から守り、元気に育てることが大切です。そのためには、農薬や化学肥料を使う必要がありますが、農薬はお米に害を与えない虫も減らしたり、肥料は川に流れて水を汚したりすることがあります。

このようなことがなるべく起きないように、農家の人たちは、農薬以外の方法を工夫したり、土を調べてから肥料を足りない分だけ与えたりして、農薬や化学肥料を減らす努力をしています。

●中山間地域^{ち い き}で農業をしている人の 移り変わり



農業就業人口、農林業センサス